

クラス会 (12クラス会)

全国のクラス会のご紹介です。毎年たくさんのクラス会が催され、ご寄稿いただいています。
紙面の都合上、写真は1枚、原稿は800字までとさせていただきます。何卒ご協力のほどお願い致します。

1 農化16回生 (昭43卒) クラス会 クラス会報告

昨年の2023年11月19日に、第24回農化16回生 (昭43卒) クラス会を、宇都宮大学農学部創立100周年記念 (2022年11月、1年延期) 時に併せて宇都宮市の「ホテルニューイタヤ」で開催しました。伊東哲夫、榎本晃一、大滝 薫、北村忠夫夫妻、柴田武志、染谷省三、田中秀幸、渡嘉敷義浩、箱山清夫、橋本俊一及び樋浦康一郎が参加されました。幹事は栃木県在住の柴田兄と田中でした。COVID-19の五類移行により、前回19年の沖縄久米島での開催から4年ぶり久しぶりの再会でした。

今年は、2024年10月17日に千葉浦安での第25回目のクラス会開催でした。同窓生染谷省三兄のご子息のイタリヤ料理店「アスパラディーン」が開店したのに合せて開催しました。大滝 薫、柴田武志、清水 修、染谷省三、田中秀幸、橋本俊一、樋浦康一郎の7名が参加しました。この一年間で加藤好武

兄 (2024年2月5日) と箱山清夫兄 (2024年3月4日) の逝去の報が届きました。これまでに卒業した30名のうち、八巻・曾我・玉造・高梨・木村・森正兄など6名の方に加え、8名の方が他界されたことになり、クラス会開催の始めに黙祷し、ご冥福をお祈りしました。なお、11月28日に北村忠夫・橋本俊一両兄の令和5年春と令和6年秋の瑞宝小章の受賞祝賀会を佐野市水仙閣で挙行了いたしました。

(文責：田中 秀幸)



2 2024年 農学科20回生クラス会報告

前年秋の宇都宮でのクラス会の折、2024年のクラス会は、初めて埼玉県で開催することとなりました。

7月4日から5日に秩父郡長瀬町の花のおもてなし長生館で、19人 (うち夫婦6組) が参加しました。宿は和風旅館で、秩父山地を源流とし県内を西から東に流れる荒川のほとりにあり、眼下に岩畳が広がっている立地にあります。皆で岩畳を散策してもらおうと計画していましたが、当日はあいにく予想外の暑さで、中止としました。夕方、宿の前で集合写真を撮り、午後6時から懇親会が始まり、終了後は幹事部屋で2次会と、大いに飲み (最近は少なくなった)、語り合いました。次回のクラス会は、茨城県が引き受けてくれることとなり、朝食後再会を期して、散会となりました。

今回のクラス会開催にあたり、計画段階から色々ご支援いただいた皆様に、厚くお礼申し上げます。

なお、クラス会開催準備中から病氣療養中だった、松井 (伊藤) 幸子さんは、2024年11月に、75歳でお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈りします。

(文責：萩原 英美)



※2024年7月4～5日 花のおもてなし長生館

3 小江戸佐原で農学科 (昭和42 年入学) クラス会

2024年9月29日・30日、千葉県の香取市佐原に、只野夫妻・小林夫妻・井上・猪瀬・菊池・鈴木・野村・橋本・藤平・宇井の12人が集いました。

29日夕方、「ホテルルートイン香取佐原駅前」に集合して1年ぶりの再会を喜び小雨が降る中、ホテルからおしゃ

べりして歩いて6分、宴会場「割烹大黒寿司」に到着しました。

早速ビールで乾杯して宴に突入です。

最初に、藤平さんより「参加されていない方からの近況報告」が話されました。皆さん、出席を楽しみにしていたのに、「持病もあり欠席」「足が不調で不参加」など、年齢相応の現象で不参加。蘭の栽培をしている松本夫妻は「内閣改造が予定されていて忙しくなりそう」と政局がらみで

欠席される方も。欠席の田中順一さんからは山形の地酒『初孫』（1年先輩の農芸化学科、佐藤淳司・郁子夫妻の酒蔵作）を送って頂き、注ぎ注がれで、一同「これはうまい！」と。

続いて参加者の近況報告。その後、佐原の地酒「二人静」を味わい、二次会まで日本酒三昧。

30日は、全員で「東国三社の一つ香取神宮」を参拝し、厄除け団子を食べながら、小江戸佐原の街並みへ移動。町並みガイド「葉さん」の「佐原は利根川水運で栄えた町、その分流小野川沿いに旅館、商店、酒蔵が立ち並び、多くの建築物が現存され、「重要伝統的建造物保存地区」に指定され、小江戸佐原として観光客でにぎわっています。」との説明を聞きながら散策。佐原を代表する洋風建築「三菱館」を観覧し、日本地図を作製した伊能忠敬翁の生家を見学。その前の小野川にかかる「じゃーじゃー橋」から水が流れる様を、

※クラス会は卒業年度で行うことが多いのですが、在学中に海外に行った同級生があり、卒業年度が異なったため、入学年度でクラス会を開催しています。



「ワ～すごい」と叫びながら観光客と一緒に大喜び。そのあと小野川を遊覧船で、岸边につながる昔ながらの建物、風になびく柳の風情を味わいながら、船からの小江戸見学。

昼食は香取屋本店のウナギ三昧に舌鼓。

来年は「小江戸川越で再会しよう」とクラス会は終了しました。

(文責：宇井 正一)

4 農業開発工学科昭和44年度入学クラス会 クラス会 「想い来て、思い出残るクラス会」

出来るなら、学生時代のあの頃に戻りたい。そんな思いで今回のクラス会は宇都宮で開催の運びとなりました。

令和6年12月2日午後、宇大に集合し、農業環境工学科松井宏之先生の案内で峰キャンパス内を散策しました。また先生から農学部100周年記念事業(令和5年11月開催)の資料、宇大演習林材でつくった記念箸等をいただきました。

旧講堂、農学部1号館玄関横のショールーム、水力学・構造力学の実験棟などを見学しました。

その後、宇都宮市内のホテルニューイタヤに移動、クラス会を開催しました。各自近況報告をしてもらい、学生時代の話や現在の過ごし方などで話が盛り上がりしました。

翌日は、2023年8月にできたLRTに乗り、

清原農場の跡地を探索しましたが、当時の面影は全くなく現在は作新大学の敷地となっている事が分かりました。

その後、市内に戻り、宇都宮餃子館にて昼食。次回は来年度、宮城県での再会を念じながら三々五々家路につきました。

(文責：相良 修)



5 農学科第17回卒業（昭和44年 3月）クラス会

我がクラスの卒業生は37名、昭和21年生まれが殆どで、既に喜寿をすぎています。

既に4人亡くなった人がいてボツボツ体調不良などを訴える人もいて今回の参加者は12名でした。宇都宮市内のビジネスホテルに宿泊して近くのレストランで会食。酒の量、食べる量は減りましたが口だけは達者で、話題は学生時代のこと、近況、体調のことなど話題は尽きずホテルロビーでの二次会まで続きました。次の日は「飛山城史跡公園」を散策して宇大で昼食をして解散しました。

我々のクラス会は昭和56年（卒業して12年目）に第1回を開催して以来毎年のように開催して今回が28回目です。このように長く続くのは岩下名誉教授のおかげと思っています。若干40歳で教授に就任された先生が我々の担



任になられ、在学中はもとより卒業後も何かと面倒を見ていただいています。クラス会の名称は「岩峰会」（峰ヶ丘の峰と岩下先生の岩をとった）として藍染の小幡も作っています（先生の寄付）。先生は今年で96歳、全くお酒は飲

まないのでが元気に毎回出席されて豊富な人生経験や学術文化などに関する豊富な話題を提供してくれ、先生の姿を見るだけで元気をもらい、先生の長生きは我々の目標です。
（文責：関 宏夫）

6 農芸化学科第32回クラス会 （昭和59年3月卒）

宇都宮大学農学部農芸化学科昭和59年3月卒業の同級会を、十数年ぶりに令和7年3月9日(日)～10日(月)で、鬼怒川温泉一心館で開催致しました。総勢18人でしたが、一人土日だと思って間違えて来られたハプニングがありました。生化学の田中秀幸教授もご参加頂き、昔話と現況の話でおおいに花を咲かせておりました。次回は、東京で昼間開催を約束し、解散致しました。

（文責：江部 典幸）



7 農学科昭和33年卒 90歳の集い クラス会

今年卒寿を迎える茨城・群馬・栃木からの5人が、令和7年4月12日に、亀の井・喜連川温泉に集まった（幹事は高野氏）。歳相応にみんな元気だ。傘寿を祝い、過ぎし日を想い、未来を夢見て、温泉で身体を癒して散会した。

（文責：山野 昌敏）



8 懐かしの学び舎を訪ねて 農業経済学科 昭和50年3月(第21回)卒業 クラス会

昭和50年3月、農学部農業経済学科を卒業した同期4人で、卒業50年の節目に峰ヶ丘の地を訪ねた。

予報通りの雨となった4月23日、宇都宮駅からLRTに乗り峰町で降車、徒歩で大学正門に向かった。途中在学当時の面影を残す建物は全く見当たらず、電柱の番地表記も様変わりしていて、当時の下宿先も見つけることはできなかった。

50年前と全く変っていない大学正門をバックにバスを待つ後輩の学生に写真を撮ってもらった。正門からキャンパスに入り右手のフランス式庭園に足を踏み入れた途端、一気に50年前が蘇った。

農業経済学ビル玄関で待機してくれていた福田教授に案内され、教室、演習室、図書室、卒論の閲覧をさせてもらった。当時はなかったエレベーターには驚いた。在学中一度も足を踏み入れたことのなかった旧講堂の内部では、旧制高等農林時代に思いを馳せた。

半世紀前とは環境が大きく変化し、農学部は女子

学生比率が高まり、交通の便も良くなって宇都宮市内で下宿するより東京から通学する学生が増えているという。学生食堂に案内して頂き、ここで午後からの講義を控えている先生と別れた。

昼食後レンタカーで鬼怒川温泉郷に向かった。途中、大谷資料館で大谷石採掘跡地を見学しその巨大さに圧倒された。

ホテルで温泉にのんびりとつかり、一杯飲みながらの夕



※参加した人：市川 武二（長野市）、高前田寿幸（盛岡市）、
林 輝夫（鎌倉市）、奥野 和雄（さいたま市）

食のはずが、二人がドクターストップという事で、古希過ぎたことを改めて痛感させられた。

翌日は打って変わった晴天に予定を早めてチェックアウト。いろは坂から中禅寺湖、日光湯元をドライブ、華厳の滝の水量の極端な少なさに異常気象を考えさせられた。東

照宮に参拝し午後二時宇都宮駅で再会を約して別れた。

お忙しい中、貴重な時間を割いてご協力頂いた農経事務室の塚原さんと、学内をご案内して頂いた福田教授に改めてお礼申し上げ報告記としたい。

(文責：奥野 和雄)

9 昭和46年畜産学科卒業クラス会 クラス会

クラス会参加者を募ったところ、ほとんどのものが喜寿を過ぎており、参加したいとの思いはあるものの健康がはかばかしくなく、やむなく不参加ですとの連絡が多くありました。

参加者8名についても、健康に問題がないものは数名であり、何らかの持病等を抱えて過ごしているとのことでした。

今回は兵庫県西宮市に住む福島君が参加、卒業以来の再会となる者がほとんどでありそれぞれの現況報告や思い出話など大いに盛り上がるクラス会となりました。

参加者のうち6名は仕事は持たずボランティアや趣味を楽しむ生活を送っているとのこと、また、現役の農業者、会社勤務者各1人ということでした。

なお、北海道に住む関田君は、前回(令和6年)のクラス会は諸般の事情でキャンセルしましたが、次回は必ず参加すると約束していたところですが、残念なことに昨年の11月に亡くなってしまいました。その他5名の同

窓が逝去しており物故者は6名となってしまいました。

散会に当たって、西宮の福島君は「次回は無理かな」又関東周辺に住む他の参加者も「年々参加することが難しくなるかな」というコメントを残しています。

発起人一同から「歳に負けず、頑張って次回も楽しいひと時を過ごそう」以上です。

(文責：矢島 清史)



令和7年5月22・23日
鬼怒川温泉「伊藤園ホテルズ ホテルニューさくら」にて

10 林学科第24回生クラス会 クラス会 (2025年5月23日)

昭和41年(1965年)卒業から60年のクラス会は前回秋田県の仲間が当番で今回は福島県内での開催に地元の荒井賛氏と斉藤(勝)氏の両者が引き受けてくれました。しかしコロナの拡大中と重なり荒井賛氏が逝去されたのです。

鈴木氏と斉藤(和)がクラス会を最後にしないとの思案から「母校を中心に日戻り」を提案、地元として「斎藤(和)と荒井(紀)中心に」企画することになりました。「峰ヶ丘同窓会事務局」に通うこと数回の結果今年の5月23日になったのです。現在宇都宮大学は6学部になり、我々の在校時代と格段の進歩に圧倒されながらの、準備、打ち合わせでした。

当日は懐かしいフランス式庭園に集合、会場を改装された「峰ヶ丘講堂」内で森林科学科の石栗准教授の丁寧な解説とその他宇都宮大学の現状等を説明していただき、さらに現在の森林科学科の研究室を覗かしていただきました。女性や外国人の学生が電子顕微鏡を覗いている姿等に我々卒業して60年、時代の進歩についてゆけない「寂

しさ」を味わったものでした。

午後は大学近くにある我々の仲間の鈴木氏実家の一室を借りて会食と飲食の会場にさせていただきました。

会食や飲食が進むにつれて現在の老化や体調の崩れの愚痴ばなし、不参加者の逝去や体調不良の声等々、それでも60年前の学生時代の思い出話等、我々だけの気兼ね無い時間(飲食)を満喫させていただきました。

また宴会途中で秋田県の吉田氏から突然電話が入り、参加者全員と会話が出来たことは、意外な盛り上がりで逸品追加になったようです。これが「リモート会話」なのか等今回の土産話の一つにもなりました。今回クラス会の衰退を心配したところだったが、まだ続けることも「まんざらでもない」との感想です。

(文責：斎藤 和夫・荒井紀一郎)



11 農芸化学科第19回生（昭和42年4月入学）クラス会開催

コロナ禍で4年半開催できなかったクラス会を、令和7年5月30日、宇都宮東武ホテルグランデ内の日本料理店で開催しました。

前回長野県飯山市で開催して以来の久しぶりのクラス会だったためか多くのクラスメートから参加希望がありましたが、体調不良や都合のため当日参加したのは、福島県郡山から阿部君、小川君、千葉県から鈴木（五百部）さん、三好君、埼玉県から金子（林）さん、また、地元栃木県から飯塚君、桑川君、斎藤君、高崎君、福島君、山路君、小田部君の12名（夜の二次会を含む）でした。

会では参加者からの近況報告のあと参加できなかった人からのメッセージなどが披露され、皆が無事で活躍していることが確認されました。また、沖縄在住の仲間君からの泡盛の差入れなどが報告されました。卒業してから54年が経過しているにもかかわらず、昨日まで会っていたような会話ができることに驚きです。

会食終了後、J R 宇都宮駅へ移動し、新しくできた宇都宮ライトレール（L R T）で清原地区市民センターまで往復、宇都宮の東側市街地が昔と大きく変わっていることやL R

Tの乗り心地の良さに皆感動しました。夕刻また宇都宮駅に戻りましたがここでも会話が止まらず喫茶店でしばし懇談、一部の人はここで帰宅の途につきましたが、残りの男性陣は福島君から紹介のあった、市内泉町の焼き鳥屋へ移動、美味しいお酒とつまみに舌鼓を打ちました。

年齢を重ね、もうクラス会はこれが最後になるかもと思っていた人も多かったようですが、あにはからんや、開催してみると、また次回もやろうということに意見が一致し、次回幹事を斎藤光君に一任することが決まりました。

一日限りのクラス会でしたが、みな元気をもらい次の再会を誓いあいました。

（文責：三好 和彦）



12 林学科クラス会（平成2年3月卒業）

令和7年6月21日(土)、宇都宮大学農学部峰ヶ丘同窓会令和7年度理事会及び農学部創立100周年記念碑除幕式が行われた日に、宇都宮市の「相撲茶屋長山」にて、林学科のクラス会（別名：宇都宮で会いましょうの会）がひっそりと開催されましたので報告します。

卒業後、クラス会という名の集まりがないまま35年が経ちましたが、大金、岡本両氏の計らいで、連絡の取れる一部の者が宇都宮に集合することになり、その後口コミで輪が広がり、卒業後初めてのクラス会が17名の参加により開催されました。

頭には白髪が混じり顔には深いシワが刻まれる等、見た目はさすがに35年の年月を感じましたが、名刺交換や近況を伝え合うお決まりの行事が終わると、すぐに思い出話に花が咲き、気持ちは一気に35年前の学生時代に戻りました。

東は北海道から西は静岡県、国・県・町の公務員から一流企業の社員まで住所も職業も様々ですが、当時と変わらぬ笑顔がそこにありました。

血気盛んだった学生時代には、紙面には掲載できないような事件？が頻繁に起きるなど、先生方には大変ご迷惑をおかけ

しましたが、多くが還暦を目前とし、すっかり落ち着き、社会的な地位を築き、立派な大人に成長していることに驚きつつも安堵することができました。

35年振りとしては短かすぎる再会でしたが、止まっていた時計の針が動き出すように、来年もまた宇都宮に集まることを確認してそれぞれの家路につきました。

また、早速LINEグループが立ち上がり、参加できなかった同級生を招待したり写真を送ったりと、解散後も深夜までトークが終わらず、暫し再会の余韻に浸りました（そのLINEになぜか奥様へのお迎えの連絡をした者がいましたが…）。

今回連絡先が不明で参加できなかった方には大変申し訳なく思います。この紙面をご覧になった林学科の同級生の皆さん連絡をお待ちしています。次回、宇都宮の地で会いましょう。

（文責：鈴木 英雄）

